

イバーダートの徳 ①



ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・

アッ=トウワイジュリー



翻訳者：サイード佐藤

校閲者：ファーティマ佐藤

編集：ムハンマド・サーリフ金子

فضائل العبادات



محمد بن إبراهيم التويجري



ترجمة: سعيد ساتو

مراجعة: فاطمة ساتو

تحرير: محمد صالح كانيكو

目次



ウドゥーの徳…………… 2

アザーン（礼拝の呼びかけ）の徳…………… 3

サラ―（礼拝）の徳…………… 5

ザカー（喜捨）の徳…………… 18

サウム（斎戒、断食）の徳…………… 19

ハッジ（大巡礼）とウムラ（小巡礼）の徳 …… 23

ズィクル（唱念）の徳…………… 24

ドゥアー（祈願）の徳…………… 26

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

本書はイスラームでのイバーダート（崇拜行為）における諸々の徳をハディース集という形で紹介しています。

ウドゥーの徳



ウドゥー¹の徳

ウスマーン・ブン・アッファーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「ウドゥーをし、それを全うする者の体からはその罪が流れ出よう。そしてそれは彼の爪の先からも、滴り落ちるのである。」」（ムスリムの伝承²）

ウドゥー及びその他の物事において、右側から始めることの徳

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は靴を履く時や髪を櫛でとかす時、体を洗淨する時など全てのことに於いて、右側から始めることを好んでいました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承³）

¹ 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の浄化を意図した体の各部位の洗淨。

² サヒーフ・ムスリム（245）。

³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（168）、サヒーフ・ムスリム（268）。引用はアル＝ブハーリーから。

ウドゥーの後サラー（礼拝）することの徳

ウクバ・ブン・アーミル（彼にアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：「ウドゥーを全うし、それから心と顔をもって2ラクア⁴のサラーに向かうムスリムは、必ずや天国に入るであろう。」（ムスリムの伝承⁵）

ウドゥーの後ズィクル（アッラーの唱念）することの徳

ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によると：アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなたたちの中でウドゥーをし、ウドゥーを達成し（または完遂し）、それから『私は証言する。アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、そしてムハンマドはアッラーの使徒である。』と言う者には、必ず8つの天国の門が開かれ、望むところから（天国へ）入るであろう。」（ムスリムの伝承⁶）

アザーン（礼拝の呼びかけ）の徳



アザーンの徳

アブドッラー・ブン・アブドッラフマーンは、アブー・サイード・アル＝フドリー（彼らにアッラーのご満悦あれ）が彼にこう語った、

⁴ 訳者注：2セットの礼拝のこと。また「心と顔をもって」というのは、心は畏怖と服従の中枢であり、顔は礼拝中にあらぬ方向に振り向かずキブラ（カアバ神殿の方向）に集中しているということで、礼拝における畏怖の念やアッラーを唱念することへの集中などを意味している。

⁵ サヒーフ・ムスリム（234）。

⁶ サヒーフ・ムスリム（234）。

と伝えています：「“私の見たところ、あなたは羊と砂漠を愛している。それであなたは羊と共にある時、あるいは砂漠にある時、サラーのためにアザーンをするならば呼び声を高らかに上げるのだ。というのもアザーンをする者の声を聞いた者はジンであっても人間であっても、あるいは何であろうと、審判の日に彼のために証言してくれるであろうからである。”」アブー・サイドは言いました：「これは私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）から聞いたことです。」（アル＝ブハーリーの伝承⁷）

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「（礼拝への）呼びかけと（礼拝において）最前列（に立つことに潜む偉大な報奨と徳）を人が知り、そして（それゆえにその役割や場所が満杯になってしまい）くじ引きするしかなくなったとしたら、彼らはそうしたであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸）

ムアーウィヤ（彼にアッラーのご満悦あれ）は、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：「アザーンする者たちは審判の日、最も首の長い者たちである⁹。」（ムスリムの伝承¹⁰）

⁷ サヒーフ・アル＝ブハーリー（609）。

⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（615）、サヒーフ・ムスリム（437）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁹ 訳者注：その意味に関しては、審判の日にアッラーのご慈悲を最も待ちわびる者たちとなることや、また偉大な報奨を得ること、あるいは汗で体が埋めれる時に首が長くなって助かることや、あるいはその日人々の首領になることといった解釈があります。

¹⁰ サヒーフ・ムスリム（387）。

サラール（礼拝）の徳



サラールに歩いて行くことと、モスクでサラール・アル＝ジャマーア（集団礼拝）することの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「サラール・アル＝ジャマーアは家や市場で単独でするサラールより、25 段階も（その報奨や徳において）優れている。それでウドゥー¹¹ をし、それを全うしてサラールのみを欲しつつモスクへと向かう者は、アッラーがモスクまでのその一步一步において彼の位階を一つずつ上げてくださり、かつ彼の過ちを一つ一つ取り除いて下さるであろう。そしてモスクに入れば次のサラールまでそこで待ち、そして彼はその間サラールをしていると見なされる。そして彼がサラールする場所にいる間、天使が彼のためにこう祈り続ける：「アッラーよ、彼の罪を赦し給え。彼がその清浄な状態にある限り、慈しみ給え。」」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹²）

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「サラール・アル＝ジャマーアは単独でするサラールよりも、（その報奨や徳において）27 段階優れている。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹³）

¹¹ 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。

¹² サヒーフ・アル＝ブハーリー（477）、サヒーフ・ムスリム（649）。引用はアル＝ブハーリーから。

¹³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（645）、サヒーフ・ムスリム（650）。引用はアル＝ブハーリーから。

朝夕にモスクに赴く者の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「朝夕にモスクに赴く者には、彼が朝夕に出かける度に、アッラーが天国における歓待をご用意下さるであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁴）

サラールを厳粛さと静粛さをもって行うことの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「サラールが始まってしまったら、あくせく急いでやって来るのではない。静粛さをもって赴くのだ。そして（サラールのラクアで）間に合ったものは（彼らと共に）行い、そうでなかったものは（皆が終わった後に補う形で）完遂するのだ。あなた方がサラールを意図して歩んでいる時は、（既に）サラールの中にあるのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁵）

タアミーーン¹⁶の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：

¹⁴ サヒーフ・アル＝ブハーリー（662）、サヒーフ・ムスリム（669）。引用はアル＝ブハーリーから。

¹⁵ サヒーフ・アル＝ブハーリー（636）、サヒーフ・ムスリム（602）。引用はムスリムから。

¹⁶ 訳者注：ハディースの中に見られるように、「アーミーーン」という言葉を指します。キリスト教の普及によって日本人が誰でも知るようになった「アーメン」という言葉と同様に、「アッラーよ、（祈りに）お応え下さい。」という意味があります。

「あなた方が“アーミン。”と言い、天にある天使たちも“アーミン。”と言ってそれが互いに重なる時、彼が以前犯した罪は赦されるであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁷）

規定時間に忠実にサラアすることの徳：

アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に尋ねました：“アッラーが最も愛でられる行為は何でしょうか？”（預言者は）言いました：“規定時間通りにサラアすることだ。”（私は）言いました：“その次は？”（預言者は）言いました：“親孝行だ。”（私は）言いました：“その次は？”（預言者は）言いました：“アッラーの道において努力奮闘することだ。”このように預言者は私に語りましたが、もし更に質問を続けていたら、更に答えを追加されたことでしょう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁸）

ファジュール（夜明け前のサラア）とアスル（午後遅くの礼拝）の礼拝をする者の徳：

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アル＝バルダーン¹⁹を礼拝する者は、天国に入るであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承²⁰）

¹⁷ サヒーフ・アル＝ブハーリー（781）、サヒーフ・ムスリム（410）。引用はアル＝ブハーリーから。

¹⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（527）、サヒーフ・ムスリム（85）。引用はアル＝ブハーリーから。

¹⁹ 訳者注：この言葉の語源はアル＝バルドゥ（冷涼さ）であり、アル＝バルダーンはその双数形です。つまり最も涼しい時期である、ファジュール（夜明け前）とアスル（夕方）の事を指しています。

²⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（574）、サヒーフ・ムスリム（635）。引用はアル＝ブハーリーから。

アブー・バスラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「（ある時）アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）はアル＝ムハンマス（地名）でアスルを率い、そしてこう言いました：“実にこのサラーはあなた方以前の者たちにも示されたのだが、彼らはそれを遵守し切れなかったのだ。ゆえにこのサラーを遵守する者には、倍の報奨があろう・・・”」（ムスリムの伝承²¹）

ファジュルとイシャー（夜更けのサラー）を行うことの徳：

ウスマーン・ブン・アッファーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“イシャー（夜更けのサラー）を集団で行う者は、あたかも夜の半分を（サラーに費やして）立ち続けたかのようなものである。そしてファジュル（夜明け前のサラー）を集団で行う者は、あたかも夜通し（サラーに費やして）立ち続けたかのようなである。”」（ムスリムの伝承²²）

サラーの後、その次のサラーまで待ち続けることの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“アッラーがそれによって過ちを抹消され、かつ位階を上げて下さることを教えてやろうか？”（教友たちは）言いました：“ぜひとも、アッラーの使徒よ。”（預言者は）言いました：“そうするのが困難な時に、ウドゥー²³を満遍なく行うことと、モスクまで沢山歩くこと

²¹ サヒーフ・ムスリム（830）。

²² サヒーフ・ムスリム（656）。

²³ 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。

そしてサラーの後（また次の）サラーまでそこで待つことだ。これこそがアッ＝リバート²⁴なのである。”」（ムスリムの伝承²⁵）

ファジュール（夜明け前のサラー）後、その場に留まることの徳：

スマーク・ブン・ハルブは言いました：「私はジャービル・ブン・サムラに尋ねました：“あなたはよくアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）と座を共にしましたか？”（彼は）言いました：“ああ、頻繁に。彼はファジュール（夜明け前のサラー）をした後、太陽が昇るまでその場から立ち上がり留まっていた。太陽が昇って初めて、立ち上がったものである。”」（ムスリムの伝承²⁶）

金曜日の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“太陽の昇る日の中で最良のものは、金曜日である。アードム（アダム）はその日創造され、その日に樂園に入れられ、その日そこから追放された。そして審判の日は金曜日以外には起こらない。”」（ムスリムの伝承²⁷）

グスル²⁸をし、金曜日の説教を聴き、集団礼拝することの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「グスルをして金曜礼拝に赴き、任意のサラーを行い、そして（イマームが）そ

²⁴ 訳者注：アッラーの服従行為のために、自らをどこかに留め置く事。

²⁵ サヒーフ・ムスリム（251）。

²⁶ サヒーフ・ムスリム（670）。

²⁷ サヒーフ・ムスリム（854）。

²⁸ 訳者注：穢れを取り除く意図をもって、全身を水で洗浄すること。

の説教を終えるまで謹聴し、かつ彼と共にサラーする者は、その前の週の金曜日の 3 日前からその日までの罪を赦されるであろう。」
 (ムスリムの伝承²⁹)

金曜日のある時間の徳：

アブー・フライラ (彼にアッラーのご満悦あれ) によれば、アッラーの使徒 (彼にアッラーからの祝福と平安あれ) は金曜日に言及してこう言いました：「その日、もしムスリムであるしもべがその時間帯にサラーし、アッラーに何かを乞えば、それが叶えられないことがないある時間がある。」クタイバは彼の伝承にこう付け足しています：「そして彼は手でもって、(その時間帯の) 短さを示しました。」
 (アル＝ブハーリーとムスリムの伝承³⁰)

アッ＝スナン・アッ＝ラーティバ³¹の徳：

ウンム・ハビーバ (彼女にアッラーのご満悦あれ) は言いました：「私はアッラーの使徒 (彼にアッラーからの平安と祝福あれ) がこう言うのを聞きました：“毎日義務ではない任意の 12 ラクア³²を礼拝するムスリムのしもべには、アッラーが天国に彼のための家を立てて下さる (あるいは彼のために天国に一軒の家が建つ)。” (ウンム・ハビーバは) 言いました：“そしてそれ以後、私はそれを未だに遵守しています。”」 (ムスリムの伝承³³)

²⁹ サヒーフ・ムスリム (857)。

³⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー (935)、サヒーフ・ムスリム (852)。引用はムスリムから。

³¹ 訳者注：推奨されている任意の礼拝のこと。

³² 訳者注：この 12 ラクアとはアッ＝ティルミズィーやアン＝ナサーイーらの別の伝承が示すように、ファジュール前の 2 ラクア、ズフル前の 4 ラクア、ズフル後の 2 ラクア、マグリブ後の 2 ラクア、イシャー後の 2 ラクアだと言われています。

³³ サヒーフ・ムスリム (728)。

夜中任意にサラーすることの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「ラマダーン月のサウム（齋戒、いわゆる断食）に次いで優れたサウムは、アッラーの月ムハラム（のそれ）である。そして義務のサラーに次いで優れたサラーは、夜の任意のサラーである。」」（ムスリムの伝承³⁴）

夜の後半にウィトル³⁵することの徳：

ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「夜の後半に起きられそうにない者は、夜の前半にウィトルするのだ。そして夜の後半に起きることを熱望する者は、後半にウィトルせよ。実に夜の後半のサラーは天使たちによって見守られており、そちらの方が（前半にするよりも）よりよいのである。」」（ムスリムの伝承³⁶）

夜の後半のドゥアー（祈願）やサラーの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「至高なるわれらが主は、毎晩夜の後半も3分の1に差し掛かる頃、天の最下層にまでご来臨なされる。そしてこう仰せられる：「われにドゥアーする者はいるか？われはそれに答えてやろう。われに何か頼み事

³⁴ サヒーフ・ムスリム（1163）。

³⁵ 訳者注：「ウィトル」とは、イシャー後からファジュル前までに行うのがスンナ・ムアッカダ（義務ではないが非常に推奨された行為）とされている、奇数回の形式をとる礼拝。「クヌート」は、その最後のラクアのルクウ（お辞儀の形の礼）前か後に行われるドゥアー（祈願）。

³⁶ サヒーフ・ムスリム（755）。

をする者はいるか？われはそれを与えてつかわそう。われに罪の赦しを乞う者はいるか？われはその罪を赦してつかわそう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承³⁷）

夜のドゥアアーの徳：

ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“夜には、ムスリムが現世と来世においてアッラーに良きことを乞えば、それが叶えられないことのないある時間帯がある。そしてそれは夜全体のことなのだ。”」（ムスリムの伝承³⁸）

ドゥハー（午前中）のサラート、その最良の時間帯：

アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「毎朝あなた方の身体の各関節には、サダカ（あらゆる形での慈善行為）が課せられる。全てのタスビーフ³⁹は一つのサダカであり、全てのタハミード⁴⁰は一つのサダカであり、全てのタハリール⁴¹は一つのサダカであり、全てのタクビール⁴²も一つのサダカである。また善行を勧めることも一つのサダカであれば、悪行を禁じることも一つのサダカである。そ

³⁷ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1145）、サヒーフ・ムスリム（758）。引用はアル＝ブハーリーから。

³⁸ サヒーフ・ムスリム（757）。

³⁹ 訳者注：アッラーの完全無欠性、全ての物事から超越する崇高さを讃えること。「スブハーナッラー」という言葉による唱念に代表されます。

⁴⁰ 訳者注：アッラーにこそ全ての賛美があると唱念すること。「アル＝ハムドリッラー」という言葉に代表されます。

⁴¹ 訳者注：アッラーこそが唯一の主であり、真に崇拜すべき対象であることを唱念するための言葉。「ラー・イラーハ・イッラッラー」という言葉に代表されます。

⁴² 訳者注：アッラーこそが最も偉大であり、それ以外のものは全て些少な存在であることを唱念するための言葉。「アッラーフ・アクバル」という言葉に代表されます。

してドゥハー（午前中）に礼拝する 2 ラクアは、それら全てに相当するのだ。」（ムスリムの伝承⁴³）

ザイド・ブン・アルカム（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「よき悔悟者のサラアとは、子ラクダたちの足が（太陽の灼熱で熱された砂の熱さに）熱される時（に行われるの）である。」（ムスリムの伝承⁴⁴）

頻繁にサジダすることの徳：

ラビーア・ブン・カアブ・アル＝アスラミー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）と共に泊まり、彼にウドゥー⁴⁵のための水や用事などにおいて仕えていました。すると（預言者は）言いました：“（私に）頼み事をするがよい。”それで私は言いました：“天国であなたと共にあることを、あなたにお頼みしたいのです。”（預言者は）言いました：“その他には？”（私は）言いました：“それ以外にはありません。”（預言者は）言いました：“（あなたが）沢山サジダすることによって、私をあなた（の頼み事）において（それが実現出来るよう）援助してくれ。”」（ムスリムの伝承⁴⁶）

サウバーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“アッラーに沢山サジダするのだ。というのもアッラーがあなたの位階を一つ上げて下さり、かつあなたの罪を一つ抹消して下さることなしに

⁴³ サヒーフ・ムスリム（720）。

⁴⁴ サヒーフ・ムスリム（748）。

⁴⁵ 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。

⁴⁶ サヒーフ・ムスリム（489）。

は、あなたがアッラーにサジダすることはないからである。”」
(ムスリムの伝承⁴⁷)

自宅で任意のサラーをすることの徳：

ザイド・ブン・サービト（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「・・・あなた方の家でサラーするのだ。というのも義務のサラーを除けば、男性にとっての最善のサラーは自宅でするものなのであるから。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁴⁸）

義務と任意のサラーの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“至高なるアッラーは仰せられた：「わが愛する敬虔なしもべに敵対する者には、われが宣戦布告しよう。そしてわがしもべがわれに向かって（任意の崇拜行為によって）近付こうとする行為は、われが彼に義務付けたもの（によるそれ）よりもわれを悦ばせるものなのである。

そしてわがしもべは（自発的な）任意の崇拜行為によって、われに向かって近付こうとし続ける。そしてわれは彼を愛で、彼の聞く聴覚となり、彼の見る視覚となり、彼がそれでもって制する手となり、それでもって歩む足となる。そして彼がわれに向かって何かを乞えば、われはそれを与えよう。彼がわが庇護を求めれば、われはそれを与えよう。そして死を厭う信仰者の魂（をその定命通り奪うこと）ほど、

⁴⁷ サヒーフ・ムスリム（488）。

⁴⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（731）、サヒーフ・ムスリム（781）。引用はムスリムから。

われがためらうことはない。われは彼を害する物事を厭うのであるから。」」（アル＝ブハーリーの伝承⁴⁹）

義務のサラアのタスリーム⁵⁰後にズィクル（唱念）することの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「各サラアの後にアッラーを 33 回タスビーフ⁵¹し、アッラーを 33 回タハミード⁵²し、また 3 3 回タクビール⁵³し、——これで計 99 回であるが——そして 100 回目には：“ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ワハダフ・ラー・シャリーカ・ラフ、ラフ＝ル・ムルク、ワ・ラフ＝ル・ハムド、ワ・フワ・アラー・クッリ・シャイイン・カディール（いかなる共同者もない、唯一のアッラーの他に真に崇拝すべきものはなし。そしてかれにこそ主権と全ての賛美は属し、かれこそは全能のお方である。）”と言った者は、例えその罪の数が海の泡のごとく（沢山）であったとしても、それを赦されるであろう。」（ムスリムの伝承⁵⁴）

葬儀のサラアとそれに参列することの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「ムスリムの葬儀に信仰心と（それに参加することの）報奨を求める心をもって参加し、その礼拝と埋葬にまで立ち会った者には偉大な報

⁴⁹ サヒーフ・アル＝ブハーリー (6502)。

⁵⁰ 訳者注：礼拝最後の動作で、右と左に顔を向けて挨拶すること。

⁵¹ 訳者注：アッラーの完全無欠性、全ての物事から超越する崇高さを讃えること。「スブハーナッラー」という言葉による唱念に代表されます。

⁵² 訳者注：アッラーにこそ全ての賛美があると唱念すること。「アル＝ハムドリッラー」という言葉に代表されます。

⁵³ 訳者注：アッラーこそが最も偉大であり、それ以外のものは全て些少な存在であることを唱念するための言葉。「アッラーフ・アクバル」という言葉に代表されます。

⁵⁴ サヒーフ・ムスリム (597)。

奨が2つあるだろう。そしてその各々はウフド山⁵⁵一つほどのようである。一方（葬儀の）礼拝にまで参加したが、埋葬にまでは立ち会わなかった者には偉大な報奨が一つある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁵⁶）

ムスリムによって葬儀のサラールをされた者の徳：

アーイシャ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「葬儀のサラールに参加したムスリムの民が 100 人に達し、彼ら全てが故人のとりなしをするならば、そのとりなしは受け入れられないことがない。」（ムスリムの伝承⁵⁷）

イブン・アッパース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“アッラーと共に他の何者をも配さない 40 人の者が故人のために葬儀のサラールを捧げるならば、アッラーは彼らを故人に対するとりなし役とされるだろう。”」（ムスリムの伝承⁵⁸）

愛しい者が亡くなくても、偉大かつ荘厳なるアッラーの御許にその（出来事における忍耐による）報奨を求める者の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「至高なるアッラーは仰せられた：“われが現世においてその愛しき者（の命）を奪っても、（それを忍耐することで）天国（の報奨）を

⁵⁵ 訳者注：マディーナ郊外に位置する山のことで。

⁵⁶ サヒーフ・アル＝ブハーリー（47）、サヒーフ・ムスリム（945）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁵⁷ サヒーフ・ムスリム（947）。

⁵⁸ サヒーフ・ムスリム（948）。

望むわが信仰者のしもべには、われのもとに報奨があるう。”」
 (アル＝ブハーリーの伝承⁵⁹)

マッカとマディーナの聖モスクでサラールする者の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「この私のモスク（マディーナの預言者モスク）におけるサラールは、それ以外のモスクとするサラールよりも（その報奨において）1,000 倍優れている。ただしマッカのハラーム・モスクにおけるサラールだけは別だ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁰）

ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「この私のモスク（マディーナの預言者モスク）におけるサラールは、それ以外のモスクとするサラールよりも（その報奨において）1,000 倍優れている。ただし（マッカの）ハラーム・モスクにおけるサラールは別だが。ハラーム・モスクにおけるサラールは、それ以外のモスクでのサラールよりも（その報奨において）100,000 倍優れているのだ。」（アフマドとイブン・マージャの伝承⁶¹）

エルサレムの聖モスクにおけるサラールの徳：

アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）のもとにいる時、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）のモスクとエルサレムの聖モスクのどちらが優れているかで、私たち

⁵⁹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（6424）。

⁶⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1190）、サヒーフ・ムスリム（1394）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁶¹ 真正な伝承。ムスナド・アフマド（14750）、スナン・イブン・マージャ（1406）参照。引用はイブン・マージャから。

の間に議論が起きました。その時アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“この私のモスクにおける一回のサラールは、（エルサレムの聖モスクにおける）4回のサラールに（その報奨において）勝る。その礼拝所の何と素晴らしいことか・・・”」（アル＝ハーキムの伝承⁶²）

クバー・モスク⁶³におけるサラールの徳：

サハル・ブン・ハニーフ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“自宅で心身を清め、それからクバー・モスクを訪れてサラールする者には、ウムラ（小巡礼）と同様の報奨がある。”」（アン＝ナサーイーとイブン・マージャの伝承⁶⁴）

ザカー（喜捨）の徳



ザカー（浄財）を施すことの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、一人のベドウィンの男が預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）のもとにやって来て言いました：“それをすれば天国に入れるような行いを教えてくれ。”」（預言者は）は言いました：“アッラーに何ものをも配さずに崇拜し、義務のサラールを行い、課されたザカーを施し、

⁶² 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（8553）。アッ＝スィルスイラ・アッ＝サヒーハ（2902）参照。

⁶³ 訳者注：マディーナに今も現存する、イスラーム史上初めて建設されたモスク。

⁶⁴ 真正な伝承。スナン・アン＝ナサーイー（699）、スナン・イブン・マージャ（1412）。引用はイブン・マージャから。

ラマダーン月のサウム（齋戒、いわゆる断食）をするのだ。”（男は言いました：“私の魂がその御手に委ねられているお方にかけて。私はそれ以外には何もしないだろう。”そして（男が）立ち去った後、（預言者は）言いました：“天国の民に属する男を見たければ、彼を見るがよい。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁵）

合法的かつ良き手段をもって稼いだ糧から施すサダカ（施し）の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“合法的かつ良き手段をもって稼いだ糧から施せば、それがナツメヤシの実一粒ほどのものであっても、アッラーは——よきものであれば受け入れられるお方ゆえ——それをその右手でもって受け入れられるであろう。そしてまるであなた方が子馬を山のような（な大きさ）になるまで育てるように、かれはその施し（の報奨）を大きくされるであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁶）

サウム（齋戒、断食）の徳



ラマダーン月の徳

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ラマダーン月が来ると天国の扉が開かれる。そして悪魔たちは

⁶⁵ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1397）、サヒーフ・ムスリム（14）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁶⁶ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1410）、サヒーフ・ムスリム（1014）。引用はアル＝ブハーリーから。

しっかりと鎖でつながれてしまう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁷）

サウムの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「アッラーは仰せられた：「アダムの子（つまり人類）のする行いは全て自らのためのものであるが、サウムだけは別であり、わがため（に成される行い）である。そしてわれはそれによって報奨を与える。」またサウムは盾である。それであなた方がサウムする日には、下劣な言動を取ったり、（言い合いをして）声を張り上げたりしてはならない。そして誰かがあなたに悪口を言ったり、争いを仕掛けてきたりしたら、「私はサーイム（サウムする者）である。」と言うのだ。ムハンマドの魂がその御手に委ねられているそのお方にかけて。サーイムの口臭は、アッラーの御許において麝香の香りよりもかぐわしい。そしてサーイムには 2 つの喜びがある：サウムを解く時の喜びと、その主にまみえた時のそのサウムゆえの喜びである。」」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁸）

サウムの徒の徳：

サハル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「天国には 8 つの門がある。そしてそこにはサウムの徒しかそこから入ることのない、アッ＝ライヤーンという名の門がある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶⁹）

⁶⁷ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1898、1899）、サヒーフ・ムスリム（1079）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁶⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1904）、サヒーフ・ムスリム（1151）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁶⁹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（3257）、サヒーフ・ムスリム（1152）。引用はアル＝ブハーリーから。

ラマダーン月をイーマーンと報奨への望みをもってサウムすることの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ラマダーン月をイーマーンと報奨への望みをもってサウムする者は、それ以前に犯した罪を赦されるであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁷⁰）

ラマダーン月をイーマーンと報奨への望みをもってサラーに費やす者の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ラマダーン月をイーマーンと報奨への望みをもってサラーに勤める者は、それ以前に犯した罪を赦されるであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁷¹）

ライラトゥル＝カドゥル⁷²にラマダーン月をイーマーンと報奨への望みをもってサラーする者の徳：

⁷⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（38）、サヒーフ・ムスリム（760）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁷¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（37）、サヒーフ・ムスリム（759）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁷² 訳者注：「ライラトゥル＝カドゥル」はラマダーン月最後の10日間の内のどれか、あるいは最後の7日間のどれかであるという伝承などの諸説があります。アッラーはこの夜、アッ＝ラウフ・アル＝マハフーズ（護られた碑版）から向こう一年分の諸事をお望みのままに定められますが、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）にクルアーンを啓示されるべく、それをアッ＝ラウフ・アル＝マハフーズから天の最下層にまで下されたのがこの夜のことでした。この夜は天を昇り降りする天使で世界中が満たされると言われます。クルアーン 97章参照のこと。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ライトウル＝カドウルをイーマーンと報奨への望みをもってサラアする者は、それ以前に犯した罪を赦されるであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁷³）

ラマダーン月をサウムし、シャウワール⁷⁴月に計 6 日間のサウムをする者の徳：

アブー・アイユブ・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“ラマダーン月をサウムし、シャウワール月に計 6 日間のサウムをする者は、あたかも一年間のサウムをしたかのようなものである⁷⁵。”」（ムスリムの伝承⁷⁶）

毎月 3 日間のサウムをすることの徳：

アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は彼にこう言いました：「・・・そして毎月 3 ヶ月のサウムをせよ。というのも一つの善行はその 10 倍に値するのであり、

⁷³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1901）、サヒーフ・ムスリム（760）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁷⁴ 訳者注：ラマダーン月に続く、ヒジュラ暦 10 月。

⁷⁵ 訳者注：つまり一つの善行がその 10 倍の報奨に値するという原則に基づけば、ラマダーン月の一ヶ月のサウムは 10 か月分のサウムに、そして 6 日間のサウムは 2 か月分のそれに相当するということになり、単純計算で一年分のサウムの報奨を得ることになります。アッラーフ・アアラム（アッラーは全てをご存知であられます）。

⁷⁶ サヒーフ・ムスリム（1164）。

それでもってあたかも一年間のサウムをしたかのようにであるからである⁷⁷。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁷⁸）

ハッジ（大巡礼）とウムラ（小巡礼）の徳



ズル＝ヒッジヤ月⁷⁹最初の 10 日間の徳：

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“いかなる日々に行われる行いも、この日々（ズル＝ヒッジヤ月最初の 10 日間）における行いに（その報奨において）優るものはない。”（教友たちは）言いました：“ジハード（アッラーの道における努力奮闘）であってもですか？”（預言者は）言いました：“ジハードであってもだ。ただし自分の生命と財をもって敵のもとへと出征し、戻ってこなかった者は別である。”」（アル＝ブハーリーの伝承⁸⁰）

正しく行われ、受け入れられたハッジの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞いた：“アッラーゆえにハッジし、下品な言動や放埒さから身を慎

⁷⁷ 訳者注：つまり一つの善行がその 10 倍の報奨に値するとすれば、毎月 3 日間のサウムはまる一ヶ月間のサウムに相当し、それゆえあたかも毎日サウムしているかのようなものであるからです。

⁷⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1976）、サヒーフ・ムスリム（1159）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁷⁹ 訳者注：ヒジュラ暦 12 月。

⁸⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（969）。

んだ者は、母親が彼を生んだ日（のような無垢で純粋な状態）に舞い戻るであろう。」」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸¹）

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は“最上の行いは何か？”と問われ、こう答えました：“アッラーとその使徒を信じることである。”そして“その次は？”と問われると、言いました：“アッラーの道においてジハード（努力奮闘）することである。”そして“その次は？”と問われると、言いました：“正しく行われ、受け入れられたハッジである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸²）

ウムラ（小巡礼）の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「一つのウムラとウムラの間には、その間（に犯された罪）の償いがある。そして正しく行われ、受け入れられたハッジの報奨は、天国以外の何ものでもない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸³）

ズィクル（唱念）の徳



ズィクルの徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“至高なるアッラーは仰せられた：「われはしもべがわれに対して持つて

⁸¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1521）、サヒーフ・ムスリム（1350）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁸² サヒーフ・アル＝ブハーリー（1519）、サヒーフ・ムスリム（83）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁸³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1773）、サヒーフ・ムスリム（1349）。引用はアル＝ブハーリーから。

いる、その思いのもとにある。われは彼がわれをズィクルすれば、彼と共にあるのだ。もし彼が自らの中でわれをズィクルするのなら、われは彼を自らの中で称えよう。そして彼が集団でわれをズィクルするのなら、われはそれに優る集団（天使たち）と共に彼らを称えよう。そしてもし彼が（服従行為によって）手の平一つ分だけわれに近付こうとするのなら、われは彼に腕一本分近付こう。そしてもし彼が（服従行為によって）腕一本分だけわれに近付こうとするのなら、われは彼に両腕分近付こう。そしてもし彼がわれに歩み寄ってくるのなら、われは彼へと走って行こう。」」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸⁴）

アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“その主をズィクル（唱念）する者としめない者の例は、あたかも生者と死人のようである。”」（アル＝ブハーリーの伝承⁸⁵）

来世について念じ、思いを馳せることの徳、及び時にそれを忘れることが許されること：

ハンザラ・アル＝ウサイイディー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「・・・そして私とアブー・バクルは行き、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）のもとにやって来ました。私は言いました：“アッラーの使徒よ、ハンザラは偽善者です。”するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“どうしてだ？”私は言いました：“アッラーの使徒よ、あなたと共にいると、あなたはあたかもそれらが眼前にあるかのように地獄や天国を想起させてくれます。しかしあなたのもとを離れると、私たちは妻や子供たち、現世の諸事に夢中になってしまい、（それらの訓戒を）ひどく忘れてしまうのです。”するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私の魂がその御手

⁸⁴ サヒーフ・アル＝ブハーリー（7405）、サヒーフ・ムスリム（2675）。引用はアル＝ブハーリーから。

⁸⁵ サヒーフ・アル＝ブハーリー（6407）。

に委ねられているお方にかけて。あなたが私のもとにある時のようなズィクルの状態を（私から離れた後も）継続していれば、あなた方の寝床や行く道々で天使たちがあなたに握手をするであろう。しかしハンザラよ、（人間とは）時にこうあれば、またある時にはそうあるものなのだ。”」（ムスリムの伝承⁸⁶）

ドゥアー（祈願）の徳



ドゥアー（祈願）の徳：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「アッラーは仰せられた：「われはしもべがわれに対してもっている、その思いと共にある。そして彼が呼べば、彼と共にある。」」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸⁷）

— 追記 —

❖ 本書に関連して、更に詳細をご希望の方は、ウェブサイト：

イスラームハウス（日本語）ページをご参照下さい。

リンク先：<https://islamhouse.com/ja/main>

⁸⁶ サヒーフ・ムスリム（2750）。

⁸⁷ サヒーフ・アル＝ブハーリー（7405）、サヒーフ・ムスリム（2675）。引用はムスリムから。

イスラームには、様々なイバーダート（崇拜行為）があります。そして、それらの各行為の中には多くの「徳」が含まれています。本書は、ムハンマド・イブラーヒーム・アツ＝トゥワイジュリー著、مختصر الفقه الإسلامي 「イスラーム概論」より『イバーダートの徳』を紹介し、そこで述べられているハディース（預言者 صلى الله عليه وسلم の言行録等）を項目ごとに集め、分かりやすくまとめたものです。本ウェブサイトと併せてご参照ください。

サウジアラビア王国・リヤド・—IslamHouse—